

## 第2回秋葉山再生連絡会議 会議録(要旨)

- 日時: 令和6年7月18日(木)午後1時30分～3時
- 場所: 南陽市役所4階大会議室

- 出席者18人 ・山形大学 ・林野庁置賜森林管理署 ・米沢地方森林組合  
・山形県置賜総合支庁: 森林整備課、河川砂防課、環境課  
・南陽市: 総合防災課、建設課、商工観光課、農林課

1開会(13:30)

進行:農林課長補佐

2挨拶 農林課長

3協議 座長:農林課長

①アドバイザー紹介

- ・山形大学農学部名誉教授 野堀嘉裕 先生(専門:森林情報学・森林資源計画学)

②山形大学野堀先生のレポート報告

■現地視察結果報告

- ・山火事後に発芽した高木類として根萌芽によるミズナラの再生を確認。灌木類としてはミソハギ、タムシバ、リョウブ、ヤマウルシ等の発芽が確認され、森中の景観が劇的に変化。梅雨期後に大きな変化が予想される。
- ・野生動物の痕跡はタヌキの溜糞を一か所発見した他は、鳥類や爬虫類、昆虫類を含め確認できなかった。

■現時点で考える森林再生プロセス

- ・森林再生における要点は、ビューポイントとそこから見える景観で、近景・中景・遠景の連続性を意識した再生が必要。例えば山小屋跡付近の近景は枯死した樹幹となっているが、これがツツジ等の花木や、ミソハギ等の紅葉樹であれば景観の連続性が生まれ価値が高まる。
- ・ミズナラの再生が数多くみられ植栽せずとも10年後には樹高5m程の林が自然再生される可能性が高い。景観の連続性を保つのであれば、ミズナラを制御し、低木の花木を市民運動で植栽することも一案。
- ・山頂付近は、神社周辺にスギ林。枯死を免れるスギの密度は間伐するよりも高くないと思われる。鎮守の森の「社を守ったスギ材」として意味を持つのでは。
- ・被害木の倒壊より自然再生の方が早い場合も考えられ、現時点では推移観察が妥当。

■森林再生プロセスの基本理念

- ・森林再生の基本理念は、今後の景観変化を通して、市民が山の歴史や活用法を学び、散策や登山をするなど、市民と秋葉山との距離を近づけることにある。

③第1回再生連絡会議以降の対応について(関係機関より)

◆市農林課(6月補正予算説明、森林経営意向調査の状況報告)

- ・秋葉山焼損森林再生事業費6,300千円

①秋葉山再生連絡会議報償費、②秋葉山焼損森林再生検討基礎資料作成業務委託料、③秋葉山山小屋周辺植生実証事業検討業務委託料、④実証事業用環境整備工事

- ・森林所有者アンケートについて 所有者37人(共有名義含む)対象、回答者29人

再生が必要だが自力復旧が困難4人、再生そのものが難しい25人(内訳:経営管理を行っていない23人、再生に係る費用の負担ができない2人)。いずれにしても自力再生については消極的。

◆市建設課(6月補正予算説明)

- ・道路橋梁等維持補修事業費1,460千円。

市道向山3号線から秋葉フルーツライン線の全線の支障木の伐採、草刈り、路面整正を実施。

- ・臨時地方道整備事業費15,400千円。

市道秋葉フルーツライン線に待避所3カ所と舗装新設を行い車両通行の円滑化を図る。

県南県立自然公園の許可必要のため総合支庁環境課の指導をお願いしたい。

◆県置賜総合支庁森林整備課(植生状況報告)

- ・焼損区域に萌芽が見られ順調に成長すれば森林の更新に期待。

・7月10日に調査プロット設定(3地点)し植生推移を継続的に調査していく。

・アカマツが生えている所にコナラでなくミズナラが多い不思議な地域。プロット③では高木が見られず5m伸びた所から横に向いており風の影響が考えられ、ミズナラも風の通り道で周囲に比べ低温が考えられる。

・山小屋周辺の木は何か良いか森林研究研修センターに伺う。本来であればアカマツとかが良いが、土地がやせているので難しい。ナラとか植えたいのであれば肥料をやり育てていく必要がある。

◆県置賜総合支庁河川砂防課(土砂災害警戒区域の経過観察の状況報告)

- ・第1回目は5月15日に大沢、宮内沢、内原沢の3カ所を現地調査。山荘付近の焼損が激しく焼失厚2cm。
- ・7月9日(7日8日の降雨後)、15日(11日の大雨警報発令後)に調査実施。9日は山荘付近で焼失厚が1cm程度で雨により灰の部分が締まった。ため池への灰の流出や土砂の流出はなし。15日は状況変化なく焼失物の流入や土砂の流入は確認できなかった。
- ・梅雨明けまでに大雨警報が出ると思うのでその都度状況を確認していく。

◆県置賜総合支庁環境課(県南県立自然公園、東北自然歩道関係)

- ・市建設課から6月補正予算対応の道路や駐車場の設置工事について事前に情報をいただき許可の有無について情報提供。
- ・自然公園区域内における許可の必要、不要について県庁に確認しながら整理中。後日共有したい。
- ・山荘の脇のトイレの撤去について確約できないが早ければ9月補正で対応できるよう検討を進めている。

◆野堀先生(関係機関からの報告を受けて)

- ・森林整備課の調査プロット3カ所のGPS座標は共有できるとよい。

※地図については南陽市においても共通した地図を共有できるよう考えていきたい。

◆置賜森林管理署

- ・火災事例の資料を取りまとめおし今しばらくお待ちいただきたい。
- ・根萌芽が思ったより見られ再生しており、河川砂防課の報告で大雨後も水の濁りがないということで安心した。野堀先生の話にあった市民とどのような里山の再生を目指すのか詰めていく必要があると感じた。

④意見交換

◆県置賜総合支庁森林整備課

- ・今のところナラ類の広葉樹の萌芽に勢いがあるが、アカマツ等針葉樹の萌芽がないのでアカマツやスギ林がどのようになっていくのか少し心配。一時アカマツが枯れてくると思うのでどう対処するのか。自然の推移を見て考えていく。
- ・アカマツが弱っていると松くい虫の被害に注意が必要。

◆県置賜総合支庁河川砂防課

- ・継続調査を実施していくことで現地を確認していく。

◆県置賜総合支庁環境課

- ・野堀先生の話から公園的見地からの整備を念頭に置いた再生対応が必要と感じた。自然公園の中の利活用のため、その都度の申請でなく公園計画を策定し進めていくことが原則。情報共有を図りながら対応していきたい。

◇農林課長

- ・現存ある機能をいかに回復させるかの各担当部署で対応しており今のところ全体的なマスタープランのようなものはない。来春の芽吹き状況や焼損の激しい山小屋周辺の森林再生をどうしていくのか今後ゾーニングを図りある程度の素案ができた段階で市民等関係者から意見を聞き進めていきたい。

◆米沢地方森林組合

- ・昨日、一昨日2日続けて現地確認。ミズナラの更新木による萌芽を確認。自然の回復力の強さを感じた。森林再生の点ではこのまま順調に進んでいくと思われる。ビューポイント市街地から近く山荘周辺など人が立ち入ることが予想される場所は早期の回復も考える必要がある。
- ・みどり環境税事業として3年前に高畠町安久津の山火事現場の伐採を行い抵抗性アカマツの捕植を実施。
- ・チェーンソーによる伐倒はチェーンの摩耗が早く炭化粉塵がチェーンソーの故障につながる。マスクをしても粉塵により作業効率が下がり健康被害が懸念される。人力は無理で重機(ザウルス等)による処理が必要。
- ・火災による焼損木は一般廃棄物または産業廃棄物であり販売できない。(北越マテリアル)
- ・伐採しながら再生を早める部分、経過を見ながらゆっくり自然の力に任せて再生させる部分のゾーニングを行いながら整備していくポイントを見極めていくことが重要。また、行政の支援により実施する部分、本来の森林収入を得ながら持続的に実施していく部分等、再生後を見据えた整備をしていくことが必要。
- ・景観的な部分とその近くの部分になると思いますが、繰り返し林業を行うことで再生を図りながら健全な森林の状態を維持できるフィールドを作っていく。
- ・南陽市は炭焼きの生産量が山形県で一番で技術的にも広葉樹を活用するフィールドも揃っている。持続的に活用できる部分を設けながら整備を行っていく。

◇野堀先生

- ・私のレポートには林業的立場の視点が欠けていた。置賜地域は山形県内でも広葉樹林の多いところ。この山を広葉樹を生産する森林と考えた場合に市民がどういう森になってほしいと思っているのかを考えると少しビジョンが違って見えてくるかもしれない。

・古図や絵図を見ると過去の山の上の方がアカマツなのかスギだったのか区別でき、どういふ土地利用されていたのかわかるので、一回検証してみる必要あり。なぜなら、なんでコナラでなくミズナラなのか今でも不思議だと思う。なんか不思議な土地利用されていたからミズナラが優勢になっているんじゃないかと強く感じる。

◆市農林課

・来年早々に市民の方の登山や神社の参拝・祭礼に向け、本年中に山荘から秋葉山神社に至る山道に覆いかぶさるブッシュや倒木、山頂付近の広場周辺の支障木、焼損、倒木等の危険木の伐採はしなければならないと思っている。当面の危険回避に係る手続等について環境課にご相談させていただきたい。

◆市建設課

・道路の待避所工事等について進めていく手続等について指導依頼。また、通行止めの期間が決まったら予告看板を設置するなどして周知を図ります。

◆市商工観光課

・県みどり自然課と今後の施設について今まであったものの回復していく方向性の中、これからどのような施設を設置していくのかを打合せを行いながら進めていきたい  
・山の会から高山植物の再生について懸念あり。このままで大丈夫なのか指導いただきたい。

◇野堀先生) 境界明確化の実施について。

◆市農林課) 特に考えていないが、必要あれば検討材料になる。

◆県置賜総合支庁森林整備課) アンケートを取り所有者が把握できているので、ある程度の線を了解してもらった方が今後の事業化しやすい状況になるので、できればここ2、3年で進めていただきたい。

◆市農林課) 現地の境界立会が必要になると大変な作業になる。関係者から図上で良いと承諾いただければ境界確定ができるのかなと考えている。課題としては、林地、土地の境界、森林の所有界どこを定めていくのかで作業内容が変わってくるので今後研究していく。

◆米沢地方森林組合) 特に広葉樹林に関して現地がどこかを落とし込むのがかなり難しいと感じている。境界明確化については当組合でも何度かチャレンジしましたが、3~4年かかり形ができるかどうかの状況。地籍調査の実績が低いが入っていない所を確定させていく工程が難しい認識。  
高性能GPSを所有しており、林地の座標値から所有者が図上で良いと承諾すれば写真を撮って示すことはできると思う。山を持っている認識や場所のビジュアル写真を示せば画期的な取り組みになると思う。

4その他(今後の日程)

・置賜選出県議団による現地視察(8/5)、高島町合同林野火災再生プロジェクト会議(8/26)

・8月はプロジェクト会議開催のため実務者会議は休み。次回会議は9月に開催。

5閉会(15:00)